

### (3) 北 関 東



北関東地域では、景気は足踏み状態となっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)

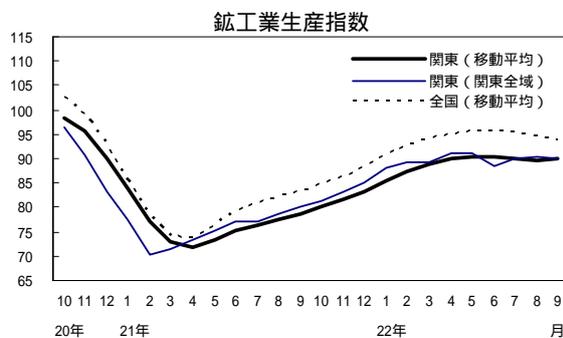
#### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 22 年 8 月)	今回 (平成 22 年 11 月)	
景況判断	緩やかに持ち直している	足踏み状態	
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	おおむね横ばい	
住宅	減少	大幅に増加	

#### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

輸送機械は、エコカー補助金終了等の影響により、普通乗用車及び小型乗用車などで、減少している。化学は、ポリカーボネートやフェノールなどで、減少している。一般機械は、韓国やアジア新興国向けを中心にフラットパネル・ディスプレイ製造装置及び半導体製造装置などで、増加している。電気機械は、猛暑の影響により、セパレート型エアコンなどで、増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値、関東の最新月は速報値。  
2. 全国及び関東の太線は後方3か月移動平均。

#### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

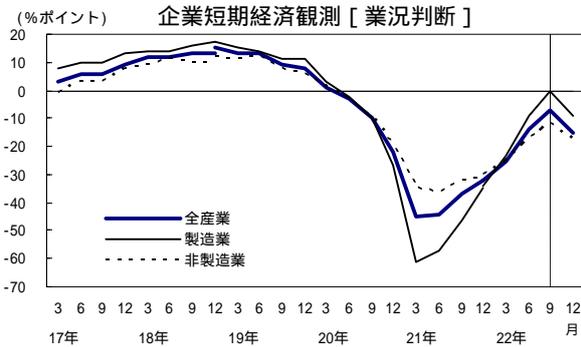
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	15.2	3.5	7.1	5.5	12.3
化学	13.4	1.2			
一般機械	13.2	16.0	5.7	4.2	5.1
電気機械	7.8	1.4	4.3	3.9	7.9
食料品・たばこ	7.1	0.7			
鉱工業	100.0	1.6	0.2	0.2	4.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

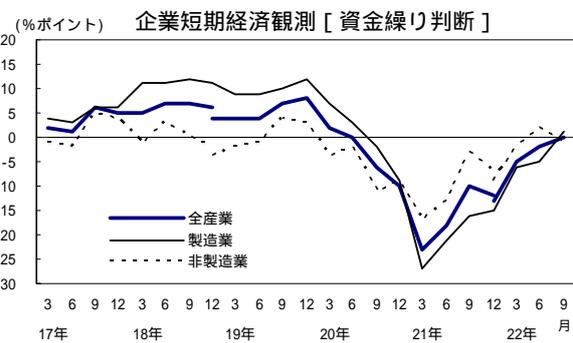
2. 7~9月期は速報値。化学、食料品・たばこは、速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

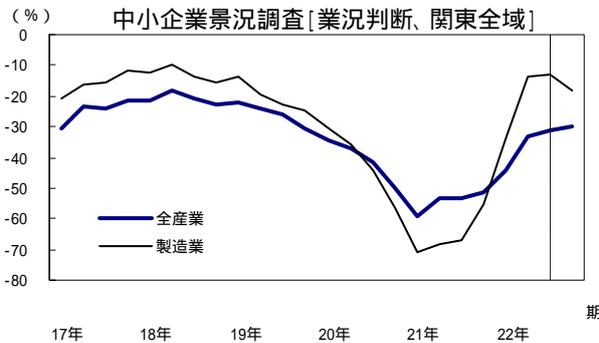
#### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年12月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。  
関東全域(新潟県を含む)



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。  
日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

#### 景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

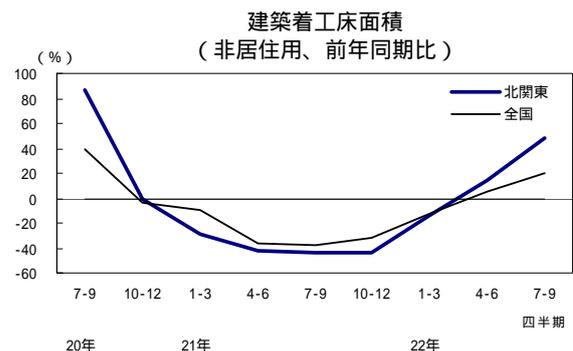
「今月あたりから、取引先の状況も大変悪くなっており、円高の影響が親会社に相当出て来ている。工作機械、特装、産業機械とも同様に悪い。国内では風評により客先の設備投資のキャンセルも出ており、当社の受注見通しも立たない状況である(金属製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

#### 企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	3.8	24.1 ( 3.0 )
製造業	35.8	35.0 ( 4.3 )
非製造業	58.9	57.3 ( 0.6 )

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。  
調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

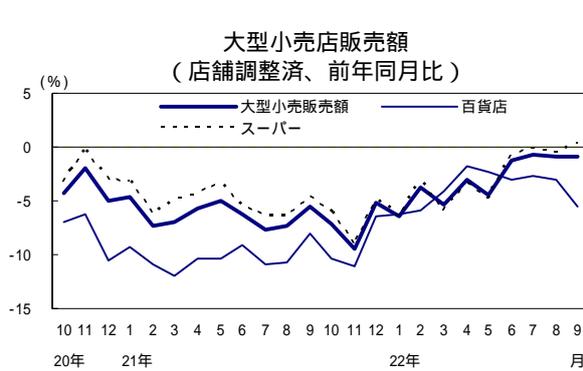
大型小売店販売額

百貨店は、7月は、クリアランスセールがまとめ買いにより好調なことから、前年比の減少幅が縮小した。8月は、猛暑により盛夏商材が好調だったものの、秋物衣料が振るわなかったことから、前年比の減少幅が拡大した。9月は、シルバーウィークの分散化や休日1日減の影響があったこと、残暑から秋物衣料が低調であったことから、前年比の減少幅が引き続き拡大した。

スーパーは、衣料品が不調だったものの、猛暑、残暑から夏物食材が好調であったことから、前年同期比の減少幅は縮小した。

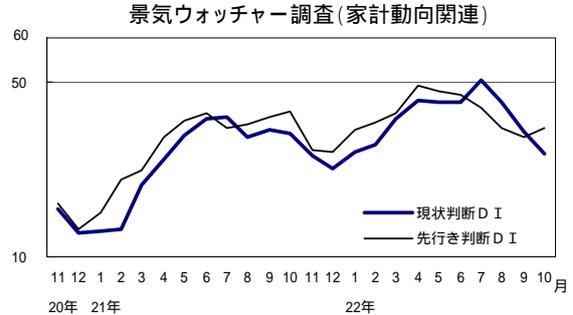
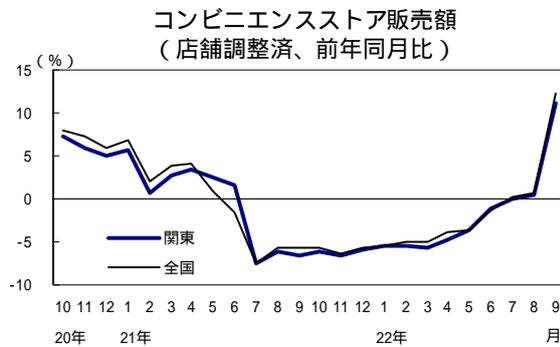
景気ウォッチャー調査(9月)[家計動向関連(現状)]

「猛烈な残暑は功罪両面あり、食品では飲料、氷菓などが好調だが、夏物は停滞し、本来中旬以降に売れるべき秋物も苦戦している。衣料品は肌着が相変わらず好調で120%の動きがあるが、パジャマが80%とダウンし、長そでTシャツやジャケット類も80~90%台と動きが鈍い(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	7.1	5.3	2.9	0.8
百貨店	9.1	5.4	2.4	3.7
スーパー	6.5	5.3	3.1	0.1
乗用車	19.5	26.2	22.5	5.1
景気ウォッチャー	33.9	37.1	45.5	44.7

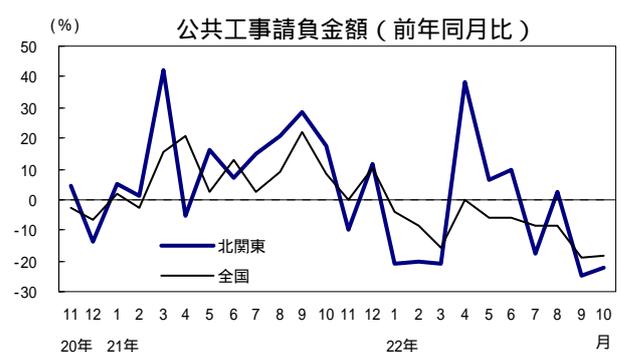
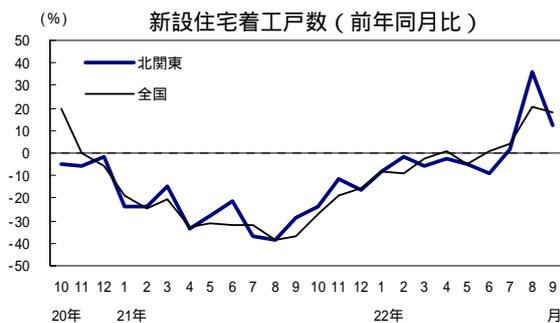
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。22年7-9月期は速報値。  
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。  
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

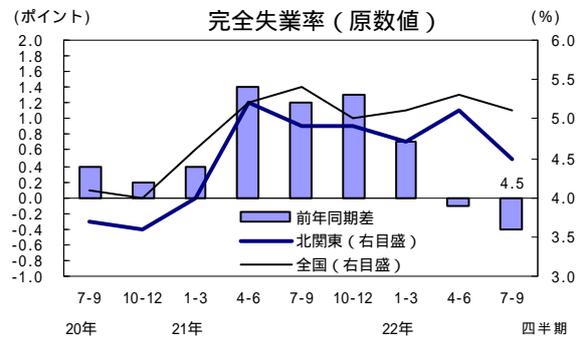
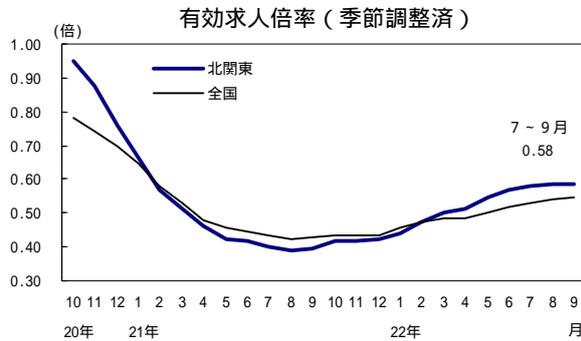


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(9月)[雇用関連(現状)]

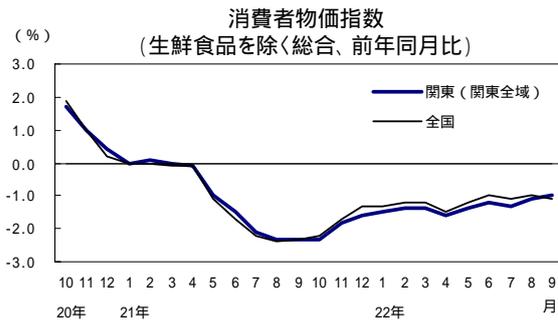
「介護、医療関係、サービス業等の求人は多少目立つが、その中でも正社員は少なく、パート募集が多い(求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月	22年10月
倒産件数	216	208	176	180	62
(前年比)	7.7	24.6	23.8	1.1	15.1
負債総額	578	690	414	1,011	92
(前年比)	42.3	36.8	64.2	7.3	34.8



景気ウォッチャー調査[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>(10月)

・補助金終了後は車が全く売れない。客は展示会には安売りのオイル交換等や原価割れの記念品を目当てに来る程度であり、本当に厳しい(乗用車販売店)。

<先行き>(9月)

・円高懸念、自動車関連の減速から、先行き不安が回復基調に水を差し、中小企業は残業規制、派遣社員の契約終了を始めている(民間職業紹介機関)。

